

長原 實・スチウレ・エング人づくり基金 (愛称:人づくり一本木基金)

奨学援助事業

将来の活躍が期待される道内在住、又は道内出身者を対象に、経済的理由などにより修学が困難な者に奨学金を支給する事業で、その入学、又は入学する学校(専修学校(専門課程)、短期大学、大学及び大学院)の最短修学年限とします。

- | | |
|-----------|---|
| [人 数] | [給付額] |
| ●若干名(単年度) | ●普通奨学金(1人当り)年額25万 (4年間の場合100万円) |
| [修学期間] | ●入学奨学金15万円(1人1回限度) (※いずれも返済義務のない給付方式です。) |
| ●4年限度 | |

顕彰事業

工芸美術及びものづくり等の分野において、その向上発展に関し功績が顕著な個人及び団体等を顕彰します。(※該当がある場合のみ実施します。)

- | | |
|-------------|-------------------|
| [名 称] | [顕彰の内容] |
| ●ものづくり一本木選奨 | ●長 原 賞/賞金50万円(1件) |
| | ●地域貢献賞/賞金30万円(1件) |
| | ●奨 励 賞/賞金10万円(2件) |

事業の対象「工芸美術及びものづくり等の分野」について

[分野及び例示]

- 道内における地域の産業・社会を支える、ものづくりや技能
例示/地域密着型の工芸、鍛造、デザイン、(北方型)建築 など
- 道内における文化芸術活動を支える、ものづくりや技能
例示/楽器製作やメンテナンス、舞台美術や大・小道具製作、保存・修復の技能 など
- 消費社会に溢れるものとは異なる、ものづくりや技能
例示/修理(リペア)技能、再加工技能、手づくりやハンドメイド技能 など
- 各業種を支える、ものづくりや技能
例示/技能士資格のある職種(鍛造、家具製作、建具製作、陶磁器製造) など

海外研修支援事業

将来の活躍が期待できる道内在住、又は道内出身者を対象に、海外において研修を受ける者に対して助成します。

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| [人 数] | [助成額] |
| ●2~3名(単年度) | ●100万円(1人当り)を限度 (※返済義務のない給付方式です。) |
| [研修期間] | |
| ●原則として、6ヶ月以上1年以内 | |

セミナー等の開催

人材育成のためのセミナーや奨学生向けの交流会などの事業を開催します。

- [開催回数] ●1回程度

基金並びに事業費の概要

| | | |
|---------|-----------------|--------|
| 基金の額 | 長原 實氏 | 4千万円 |
| | スチウレ・エング氏 | 2千万円他 |
| | 合計 | 6千万円程度 |
| 事業費(年額) | 9百万円程度 | |

※上記の基金に加え、毎年、スチウレ・エング氏がデザインした家具のロイヤリティが(株)カンディハウスから寄附され、さらに一般の皆さまからの特定寄附金が、この基金の運営を担っています。

「長原 實・スチウレ・エング 人づくり基金」運営委員会

「長原 實・スチウレ・エング 人づくり基金」に係る事業運営及び各種選考等について協議するため、工芸美術及びものづくり等の分野における有識者による、「長原 實・スチウレ・エング 人づくり基金」運営委員会を設置しています。

[協議事項]

運営委員会は、次の事項について検討協議します。

- (1)基金の運営に関すること。
- (2)奨学援助事業における奨学生の選考に関すること。
- (3)海外研修支援事業における研修生の選考に関すること。
- (4)顕彰事業における顕彰者の選考に関すること。
- (5)その他、事業実施にあたり必要な事項に関すること。



ものをつくる ひとをつくる もとをつくる

公益財団法人北海道文化財団では、長原實氏並びにスチウレ・エング氏からのご寄附をもとに「長原實・スチウレ・エング 人づくり基金(愛称:人づくり一本木基金)」を創設し、「工芸美術及びものづくり等の分野」における、次代を担う人材の育成と創造活動の振興発展のため、道内在住、又は道内出身者を対象とした、『奨学援助(奨学金給付)』、『海外研修支援(助成金支給)』、『顕彰(ものづくり一本木選奨の贈呈)』、『セミナー等の開催』の4つの事業を、平成27年からスタートさせました。

事業の実施に当たって

基金の寄附者である長原實氏は、デザイン性という、当時業界では関心のなかった分野に取り組み、旭川家具を今日の姿に牽引してこられたリーダーの一人です。

創業30年を機に、「一本技」というブランドを立ち上げられましたが、氏は、ある書籍の中で、述べておられます。

「本当に銘木だけが、価値のある“木”なのか」

「節や割れ、こぶがあるというだけで、何故家具になれないのか」

「それでは命を託して私たちの元へやってくる“木”に申し訳ない」

「“木”にも個性がある。その個性を生かして家具づくりをしなればいけない」

「家具のために材を選ぶのではなく、その“木”が最も自分らしい美しさを表現できるように仕上げた家具をつくる、それが職人の仕事だ」と。

「100年生きてきた木の命をいただく者は、100年使える家具をつくる」

修理し、或いは不要になった家具を引き取り、ビンテージ家具として再生する。

この考え、思いは、この事業の今後のキーワードとなるに違いありません。

そのことに思いを馳せながら、この基金の愛称を「人づくり一本木基金」と名付けることにしました。

一本一本の木の命を生かしきる。一人一人の個性を活かす。

一本一本の木、一人一人の命を大切に、この「島」の将来を担う若者の学びに寄り添い、その未来を応援していきたいと願っています。

公益財団法人北海道文化財団
理事長 磯田 憲一

ものづくりを 目指す人たちを 応援する

人づくり 一本木基金



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION
公益財団法人 北海道文化財団

〒060 0042
札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3階
TEL 011 272 0501 FAX 011 272 0400
<http://haf.jp>

公益財団法人北海道文化財団